昭和六十三年

日本思想史関係研究文献要目

凡例

一、本要目には、昭和六十三年に発行乃至発表された日本思想史関係の単行本並びに雑誌・紀要論文を収録した。

一、本要目には、日本思想史関係の学術的な研究を選択収録することを原則としたが、一般読者向けのものも適宜収めた。

一、右のように選択した文献を、Ⅰ単行本目録Ⅱ雑誌・紀要論文目録の二部に分け、次のように配列した。

Ⅰ・Ⅱ部とも、文献をその内容によって、総雑・古代・中世・近世・近代に分け、さらにそれぞれに属する思想史関係研究文献を、一般・学問道徳教育方面・宗教方面・文芸美術芸能方面・政治社会経済方面・その他の項目順に分類配列した。

単行本は、書名・著者名・発行所名の順、論文は、題名・執筆者名・掲載雑誌紀要巻号数の順に記載した。

一、本要目の作成には、東北大学文学部日本思想史学研究室所属の助手・大学院学生があたった。

一、日本思想史という学問の性格上から、研究文献の選択に迷うことが多く、短時間の間に作成したためもあって、文献の選択や配列に不備な点があるものと考えられる。大方の御教示をお願いする。

I 単行本目録

総　雑

日本史論聚　林屋辰三郎　岩波書店
- 1 日本文化史
- 2 古代の環境
- 3 変革の道程
- 4 近世の黎明
- 5 伝統の形成
- 6 近代の模索
- 7 史料の探求
- 8 芸術の周辺

日本精神史　石田一良編　ぺりかん社

日本宋学史の研究　増補版　和島芳男　吉川弘文館

上方学芸史叢攷（日本書誌学大系55）　肥田晧三　青裳堂書店

大系仏教と日本人　井上光貞・上山春平監修　春秋社
- 7 芸能と鎮魂　守屋毅編
- 10 民衆と社会　村上重良編

仏教民俗学大系　名著出版
- 3 聖地と他界観　桜井徳太郎編
- 4 祖先祭祀と葬墓　藤井正雄編

弘法大師信仰（民衆宗教史叢書14）　日野西信定編　雄山閣出版

庚申信仰（民衆宗教史叢書17）　小花波平六編　雄山閣出版

桜井徳太郎著作集　吉川弘文館
- 1 講集団の研究
- 3 民間宗教の研究（上）
- 5 日本シャマニズムの研究（上）
- 6 日本シャマニズムの研究（下）

日本宗教の正統と異端　桜井徳太郎編　弘文堂

大峰修験道の研究　宮家準　佼成出版社

日本キリスト教史年表　日本キリスト教歴史大事典編集委員会編　教文館

年号の歴史—元号制度の史的研究（雄山閣books 22）　所功　雄山閣出版

日本社会と天皇制（岩波ブックレット108）　網野善彦　岩波書店

古　代

福井康順著作集　法蔵館
- 4 日本上代思想研究

奈良文化と唐文化（東アジアのなかの日本歴史2）　王金林　六興出版

平安時代の古記録と貴族文化（思文閣史学叢書）　山中裕　思文閣出版

書名	著者	出版社
坂本太郎著作集	坂本太郎著作集編集委員会編	吉川弘文館
2 古事記と日本書紀		
4 風土記と万葉集		
6 大化改新		
古事記と日本書紀の成立	梅沢伊勢三	吉川弘文館
古事記と日本書紀の検証	〃	〃
記紀神話伝説の研究	福島秋穂	六興出版
古代日本の庶民と信仰	下出積與	弘文堂
日本古代の菩薩と民衆	吉田靖雄	吉川弘文館
最澄（人物叢書）	田村晃祐	〃
源信（人物叢書）	速水侑	〃

中世

書名	著者	出版社
日本寺院史の研究 中世・近世編	平岡定海	吉川弘文館
中世寺院史の研究（上）・（下）	中世寺院史研究会編	法蔵館
禅宗地方展開史の研究	広瀬良弘	吉川弘文館
法然浄土教思想論攷	藤本浄彦	平楽寺書店
鎌倉新仏教の成立—入門儀礼と祖師神話（中世史研究選書）	松尾剛次	吉川弘文館
中世国家の宗教構造—体制仏教と体制外仏教の相剋（中世史研究選書）	佐々木馨	〃
踊り念仏（平凡社選書117）	五来重	平凡社
的と胞衣—中世人の生と死	横井清	平凡社
数奇と無常	目崎徳衛	吉川弘文館
中世遊行聖と文学	梅谷繁樹	桜楓社
御伽草子の精神史	島内景二	ぺりかん社
祝儀・吉書・呪符—中世村落の祈りと呪術（中世史研究選書）	中野豊任	吉川弘文館
忘れられた霊場—中世心性史の試み（平凡社選書123）	〃	平凡社
桃裕行著作集		思文閣出版
3 武家家訓の研究		

近世

書名	著者	出版社
寛永文化の研究	熊倉功夫	吉川弘文館
山鹿素行の研究（神道史研究叢書14）	中山広司	神道史学会
新井白石の史学と地理学	宮崎道生	吉川弘文館
日中儒学の比較（東アジアの中の日本歴史5）	王家驊	六興出版
江戸の儒学—『大学』受容の歴史	源了圓編	思文閣出版
本居宣長	高野敏夫	河出書房新社
近世の学校と教育	海原徹	思文閣出版
江戸時代の人づくり—胎教や寺子屋・藩校まで（教文選書）	久保田信之	日本教文社
近世浄土宗の信仰と教化	長谷川匡俊	溪水社・北辰堂
無縁と土着—隠れ念仏考	米村竜治	同朋社出版

村芝居　守屋毅　平凡社
日本芸能史(6) 近世—近代　芸能史研究会編　法政大学出版局

近代

日本近代思想大系　岩波書店
2 天皇と華族　遠山茂樹 校注
5 宗教と国家　安丸良夫他校注
8 経済構想　中村政則他校注
10 学問と知識人　松本三之介他校注
12 対外観　芝原拓自他校注
18 芸能　倉田喜弘 校注
大久保利謙歴史著作集　吉川弘文館
6 明治の思想と文化
7 日本近代史学の成立
明治前期思想　小林利裕　三和書房
福沢屋諭吉の研究　長尾正憲　思文閣出版
山路愛山（人物叢書）　坂本多加雄　吉川弘文館
近代思想史における内村鑑三—政治・民族・無教会論　渋谷浩　新地書房
内村鑑三—偉大なる罪人の生涯（シリーズ・民間日本学者15）　富岡幸一郎　リブロポート
柳田国男と古代史　佐伯有清　吉川弘文館
論集日本仏教史　雄山閣出版
8 明治時代　池田英俊編
9 大正・昭和時代　孝本貢編
生き神の思想史—日本の近代化と民衆宗教　小沢浩　岩波書店
戦後日本の精神史—その再検討　テツオ・ナジタ 前田愛他編　〃
日本近代化の精神世界—明治期豪農層の軌跡　宮沢邦一郎　雄山閣出版
戦後デモクラシーの成立　犬童一男 山口定他編　岩波書店

II 雑誌・紀要論文目録

総雑

思想としての日本文化論　大橋良介　中央公論一〇三—一一
福永光司の「道教」と「日本文化」に関する一連の研究をめぐって　佐藤明　中国哲学論集一四
異と同の瀬踏み—日本・中国の概念比較 4〜8　溝口雄三 相良亨 田原嗣郎　文学五六—二・六・八・九・一〇
風呂敷文化のポスト・モダン—日本・韓国の伝統文化を再読する 1〜7　李御寧　中央公論一〇三—三・四・五・六・七・九・一二
日本神話研究の現在—状況・問題点の整理と展望　西宮秀紀　国文学三三—八
祭儀と芸能のあいだ—芸能研究方法論序説　岩田勝　民俗芸能研究七

歴史学と民俗学の関係をめぐって	網野善彦	岡崎市史研究 一〇
アジアへの視線	村井章介	民衆史研究 三五

古代

大祓詞の構造と成立	竜野暁啓	立命館文学 五〇五
大殿祭祝詞の成立の背景について	鳥谷知子	学苑（昭和女子大・近代文化研） 五七七
延喜式道饗祭祝詞試論	中沢伸弘	神道学 一三六
神階より見た九世紀の官社制度	古川淳一	川内古代史論集 四
律令制祭祀における伊勢神宮	岡田精司	立命館文学 五〇九
八坂神社の変遷と祇園会の源流	志賀剛	神道史研究 三六—三
園韓神祭の周辺	根川幸男	日野昭博士還暦記念会編『歴史と伝承』
古代山城国境での疫神祭祀地と主要な通路	関口靖之	歴史地理学紀要 三〇
古代伝承の鹿—大王祭祀復元の試み	岡田精司	直木孝次郎先生古稀記念会編『古代史論集』上
伝教大師最澄の仏教と「機」	木内尭央	印度学仏教学研究 三六—二
空と勝義の孝—古代仏教における怨霊救済の論理	八重樫直比古	石田一良編『日本精神史』

慧沼『金光明最勝王経疏』における「王法正論品」解釈	八重樫直比古	紀要（ノートルダム清心女子大・文化学編） 一二—一
日本天台初期の即身成仏思想	田村晃祐	東洋学論叢 一三
最澄と天台本覚思想	栗田勇	文芸 二七—一
〃	〃	〃 二七—二
弘法大師空海の遺誡・遺告について—一	和多秀乘	印度学仏教学研究 三六—二
王宮と山巌と—空海をめぐる都市と山林	藤原正己	南都仏教 五九
四国の空海の彷徨と丹生明神	近藤喜博	国学院雑誌 八九—九
弘法大師の空思想について	元山公寿	智山学報 三七
高野山の開創とその意義—弘法大師の生涯における弘仁六・七年	武内孝善	密教文化 一六二
奈良時代の禅	末木文美士	禅文化研究所紀要 一五
法相宗の伝来と道昭・行基の関係	吉田靖雄	『古代史論集』上
古代寺院建立の精神	安井良三	『日本精神史』
平安時代における山間部の寺院と浄土信仰—南山城地方の寺に対する一視点として	八田達男	国史学研究 一四
「中尊寺建立供養願文」覚書	佐々木博康	研究年報（岩手大・教育） 四八—一

高野山に於ける弥勒信仰―平氏を中心として	寺林朋子	下出積與編『日本宗教史論纂』
「行基菩薩遺誡」考・補遺―行基参宮伝来の周辺	木下資一	論集（神戸大・教養） 四一
日本古代仙人考―平安朝以前と平安朝に於ける仙人観の比較	松田智弘	『歴史と伝承』
看病禅師考―『日本霊異記』の諸例	朝枝善照	西光義敞編『援助的人間関係』
践祚仁王会考（上）	瀧川政次郎	古代文化 四〇―一一
律令仏教の基本構造の成立―政治権力と宗教的権威の合致	二葉憲香	『歴史と伝承』
律令と仏教戒律―「婬」と「非法立制」をめぐる堕落への一考察	葛本一雄	故金沢尚淑博士追悼論文集編集委員会編『法学の諸問題』
初期律令仏教興隆の一側面	堅田修	『歴史と伝承』
『僧尼令』僧綱関係条文を通じて見た仏教「制度化」	平野不退	〃
摂関政治の性格―空也と僧尼令的秩序	中川修	〃
平安時代における密教星辰供の成立と道教	山下克明	日本史研究 三一二
大元法の成立―その背景と独立	金岡秀友	大倉山論集 二三
神宮寺の成立について	平岡定海	今井林太郎先生喜寿記念論文集刊行会編『国史学論集』

神宮寺の神祇奉斎―神仏習合の源流を求めて	嵯峨井建	神道宗教 一三一
縁起神道の成立―天神信仰と本地垂迹思想	笠井昌昭	『日本精神史』
山林修行者・他界・八幡神	上田さち子	歴史研究（大阪府立大） 二六
再び山王七社の成立について	佐藤眞人	大倉山論集 二三
古代東北における神と仏	奥野中彦	民衆史研究 三五
日本神話に見る生と死	上田賢治	東洋学術研究 二七―二
巫者と文学―神話とシャーマニズム序説	関根賢司	国文学 解釈と鑑賞 五三―九
「居陁知」と「八岐大蛇」―韓・日両国の説話比較序説	岡山善一郎	天理大学学報 一五六
日本神話と韓半島三国の服飾	金東旭	東北大日本文化研究施設編『日本文化と東アジア』
火神伝承の構成について	松倉文比古	『歴史と伝承』
神々の人界巡行―『法苑珠林』と日本説話	稲田浩二	研究紀要（京都女子大・宗教・文化研） 一
沙本毘賣物語と漢訳仏典	瀬間正之	古事記年報 三〇
万葉集に現れた二つの吉野―自然空間と都市空間	永藤靖	下出積與編『日本古代史論輯』

古代歌人の自然観 下—『万葉集』より	木幡瑞枝	紀要（東京女子大・比較文化研）四九
引用の意識—大伴家持における和歌と漢籍	中西進	文学 五六—一一
『霊異記』説話の構想と伝統的思惟	佐々木孝二	文経論叢（弘前大・人文）二三—三
『日本霊異記』道場法師説話と竜蛇信仰	丸山顕徳	立命館文学 五〇五
霊異記の善珠の説話	南里みち子	紀要（福岡女子短大）三五
『日本霊異記』からの引用—『三宝絵詞』の場合	宇佐美正利	『日本宗教史論纂』
『竹取物語』にみる皇権と道教—不死の薬の歴史から	小嶋菜温子	日本文学 三七—四
敬して親しまず—今昔物語の孔子	上田設夫	国語と国文学 六五—九
虐殺された神・隠された英雄—吉備津彦と温羅伝説	永藤靖	文芸研究（明治大）五八
『源氏物語』と「記紀神話」	山崎正之	二松学舎大東洋学研究所集刊 一八
『古事談』第三五九話（巻第五第二五説）の背景—天喜二年の聖徳太子『未来記』の発掘をめぐって	野口博久	説話 八
政治・宗教と文学—大江匡房の述作活動の一面	吉原浩人	国文学 解釈と鑑賞 五三—三
天平彫刻の精神—芸術精神の展開について	小川光暘	『日本精神史』

古事記における「豊葦原水穂国」二—併せて「跳浪穂」のこと。色名続考追加	川副武胤	就実論叢（岡山就実短大）一七
古代日本人の自然観—『古事記』を中心に 二	舟橋豊	言語文化論集（名古屋大）九—二
『古事記』〈国譲り神説〉の一問題	矢嶋泉	日本文学 三七—三
『古事記』における〈他者〉の問題—「国譲り」神話をめぐって	斎藤英喜	日本文学 三七—四
神話における異次元と他者化—神話から『古事記』へ	菅原浩	〃
古事記の表記と「経律異相」	瀬間正之	太田善麿先生古稀記念会編『国語国文学論叢』
古事記の訓みの再検討	西宮一民	〃
『古事記』の所伝のなりたちと漢籍—仁徳天皇条の所伝をめぐって その一	榎本福寿	研究紀要（仏教大）七二
〃 その二	〃	研究紀要（仏教大・院）一六
日本書紀における仏教伝来説話をめぐって	佐藤正英	日本思想史学 二〇
日本書紀の詔勅に見える儒教思想	市川本太郎	斯文 九五
日本における神概念の諸相—『日本書紀』を軸に	野崎守英	比較思想研究 一四
持統紀編修に関する一考察	庖丁道明	『古代史論集』上

記紀の天皇像と朝鮮の王者像と	井上秀雄	研究報告(東北大・日本文化研) 一四
日本と朝鮮における国土・王権獲得の神話	佐々木隆	文学論藻 六二
「記紀」神話と古代人の思惟	岩崎允胤	季刊科学と思想 六八
記紀神話と信仰伝承	尾畑喜一郎	古事記年報 三〇
王家の移動伝説の原型について	奥田尚	年報(追手門学院大・文・東洋文化) 三
神武伝説の再検討—熊野地方における伝承を中心として	河瀬信幸	『歴史と伝承』
神武東征説話の形成—伊野部重一郎氏の所論に触れて	菅野雅雄	紀要(国学院高) 一二
『常陸国風土記』の成立年代について	久信田喜一	芸林 三七—一
『播磨国風土記』の神々—地方神の変貌	永藤靖	文芸研究(明治大) 五九
国引き神話の基盤	瀧音能之	『日本宗教史論纂』
王権史構想における顕宗・仁賢の位置をめぐって—二王の相譲を中心としてみた	篠原幸久	続日本紀研究 二五七
『新撰亀相記』と四国の卜部	川端守幸	神道史研究 三六—二
前方後円墳の道教背景論について—卑弥呼の鬼道道教説への疑問	下出積與	『日本古代史論輯』
仏教伝来と古代王権	川岸宏教	鶴岡静夫編『古代王権と氏族 古代史論集2』
古代地域王権と水の祭儀	辰巳和弘	『歴史と伝承』
「風土記」にみる聖と俗の生活	野口隆	ソシオロジ 三二—三
古代琉球の王権儀礼と王の即位	末次智	立命館文学 五〇五
古代王権とタマ(霊)—「天皇霊」を中心に	熊谷公男	日本史研究 三〇八
玉依姫の位置〈一試論〉—古代日本における聖俗二重支配をめぐって	福島千賀子	基礎科学紀要(日本医科大) 八
太子の屍—『本朝神仙伝』と往生伝	中前正志	国語国文 五七—一〇
続稿・十七条憲法	俣野太郎	大倉山論集 二四
聖徳太子建立四六カ寺説について	小野一之	中央史学 一一
一条朝と愚管抄の説話—藤原道長をめぐって	尾崎勇	風俗 二七—二
平安時代中期に於ける神宮奉幣使の展開—公卿勅使制度成立に関する試論	小松馨	大倉山論集 二三
石清水放生会に於ける「神訴」	鍛代敏雄	国史学 一三四
死の香り生の香り—日本思想の姿と構造への序	野崎守英	紀要(中央大・文) 一二九
道と古代国家	武田佐知子	評林 一五
ケガレの語源	西宮一尼	紀要(皇学館大・神道研) 四

古代日本における対唐観の研究　森公章　国史研究八四
松前健著『大和国家と神話伝承』　山崎正之　国学院雑誌八八
西口順子著『女の力―古代の女性と仏教』　上田さち子　ヒストリア一一九

中世

中世の文化交流と地方文化　平松令三　『歴史と伝承』
遠ざかる中世　黒田俊雄　黒田俊雄編『中世民衆の世界』
多様な中世像・日本像―現代日本人の源流をさぐる　対談―司馬遼太郎・網野善彦　中央公論一〇三―四
『梅松論』の著者と夢窓・親房　玉懸博之　片野達郎編『中世の文化』
中原師員と清原教隆　永井晋　金沢文庫研究二八一
中世寺院史と社会生活史―研究の回顧と展望　黒田俊雄　中世寺院史研究会編『中世寺院史の研究』上
中世顕密寺院における修法の一考察　田中文英　〃
講式から見た貞慶の信仰―『観音講式』を中心に　西山厚　『中世院史の研究』下
「真言宗」と東大寺―鎌倉後期の本末相論を通して　永村眞　〃
鎌倉期の興福寺寺僧集団について　稲葉伸道　年報中世史研究一三
天台本覚思想の成立　栗田勇　文芸二七―三・四
北白河院藤原陳子とその周辺―明恵に関する新史料　湯之上隆　日本歴史四八三
法然から親鸞へ　早島鏡正　大倉山論集二三
親鸞における宗教意識の成熟と夢　寺川幽芳　人文論叢三六
浄土真宗における神祇観の発展　久野芳子　『日本精神史』
往生思想の研究―往生伝を中心として　伊藤順治　真宗学七七
親鸞と末法史観―三願転入を通して　中根和浩　『日本宗教史論纂』
親鸞における「法」と「機」の出会いについて　宮島磨　日本思想史学二〇
安居院聖覚と嘉禄の法難　平雅行　『中世寺院史の研究』上
真宗における神祇観　林智康　真宗学七八
建長の専修念仏弾圧に関する一考察　廣野誠　『国史学論集』
中世後期真宗における〈浄土〉の実質的展開―蓮如の場合　遠藤一　『歴史と伝承』
存覚における悪人正機説の展開　矢田了章　真宗学七七
戦国期本願寺教団の裏書考　金龍静　年報中世史研究一三
戦国期西駿にあける浄土宗の展開　長倉智恵雄　戦国史研究一六

中世社会における禅僧と時衆—一遍上人参禅説話再考	原田正俊	日本史研究	二一三
時宗における念仏観	早田啓子	学苑	五七八
日蓮聖人遺文における説話の研究—「優塡大王」を中心に	龍門義通	紀要（日蓮教学研）	一五
日蓮聖人の忍性批判について	中村晋也	〃	
『立正安国論』成立についての一考察	関戸堯海	印度学仏教学研究	三七—一
中世の「道場」における死と出家	神田千里	史学雑誌	九七—九
『正法眼蔵』における仏道の道程	玉城康四郎	宗学研究（駒沢大・曹洞宗宗学研）	三〇
道元の証の世界についての一考察—その時間論を手がかりとして	頼住光子	倫理学年報	三七
差別の論理構造—曹洞宗差別切紙における業・輪廻・仏性思想について	工藤英勝	宗学研究（駒沢大・曹洞宗宗学研）	三〇
北条実時と思円房叡尊	高橋秀栄	印度学仏教学研究	三七—一
阿仏尼伝の一節—律宗との関係をめぐって	細川涼一	三浦古文化	四三
楠木正成譚と中世律僧	砂川博	紀要（北九州大・文）	三九
続・『太平記』と中世律僧	〃	日本文学	三七—一〇
王権と尼寺—中世女性と舎利信仰	細川涼一	列島の文化史	五
室町幕府の祈禱と醍醐寺三宝院	片山伸	佛教史学研究	三一—二
「天皇の往生」おぼえがき—堀河天皇の死をめぐって	西口順子	史窓	四五
中臣祓の成立	鎌田純一	大倉山論集	二三
中臣祓訓解と法華経	吉山竜美	皇学館論叢	二一—一
初期伊勢神道の思想	高橋美由紀	神道学	一三六
伊勢神道の成立とその時代	〃	『日本精神史』	
伊勢神道成立の背景	平泉隆房	皇学館論叢	二一—四
吉田兼倶の論理と宗教—一五世紀宗教論への視座	大桑斉	『日本宗教史論纂』	
神道集〈諏訪縁起〉の方法—「秋山祭事」「五月会事」をめぐって	福田晃	立命館文学	五〇五
神社と悪人往生—諏訪信仰の展開	今堀太逸	人文学論集（佛教大）	二二
神道集所収「上野国一宮縁起」考—在地縁起との比較を通して	大島由紀夫	説話文学研究	二三
宮曼荼羅の成立についての思想史的考察	松本公一	文化史学	四四
室町・戦国期の伊東氏と神社	福島金治	宮崎県史研究	二
西大寺叡尊及び西大寺流の文殊信仰とその造像	内田啓一	美術史研究（早稲田大）	二六
館山市那古寺僧形八幡神画像について—神道美術における僧形八幡神画像の系譜	吉田辰郎	国立歴史民俗博物館研究報告	一七

法華信仰の表出（法華経絵）	高木　豊	日本の美術　二六九
怨霊信仰の変容—文芸にみる新田義興の怨霊の比較分析	鈴木章生	紀要（品川歴史館）　三
西行にみられる無常感と死の意識	高木きよ子	東洋学論叢　一三
「地獄絵を見て」連作について—西行の罪業意識を中心に	中西満義	紀要（上田女子短大）　一一
衆生済度への道—『撰集抄』における遁世	山口真琴	高知大国文　一九
鴨長明における「数寄」	中西満義	学海　四
『方丈記』序章考—その無常観の検討	関口忠男	日本文学　三七—三
『明月記』にみる夢の考察	カラム・ハリール	社会文化史学　二四
歌徳説話の位相—雨乞をめぐって	大谷俊太	国語国文　五七—五
〈王城〉の内と外—今様・霊験所歌に見る空間意識	永池健二	日本歌謡研究　二七
唱導劇の時代—能の成立についての一考察	松岡心平	国語と国文学　六五—五
中世芸道論の発生をめぐる一考察	石黒吉次郎	国語と国文学　六五—五
中世芸術論における「諸道」について	〃	専修人文論集　四一
『徒然草』と『正法眼蔵随聞記』—「道を楽しぶ」と「道を学す」	古橋恒夫	紀要（日本大・一般教育）　一四
室町時代の思想と芸術	石田一良	『日本精神史』
伝統と中世の「花」	坊城俊民	短歌三五—一〇
中世歌論に投影した中国詩—神女賦考	石原清志	竜谷大学論集　四三二
色（しき）世界と「眼」—心敬の連歌の根底にあるもの	菅　基久子	日本思想史研究　二〇
心敬の「修行」論の基調	〃	文芸研究　一一九
当道祖神伝承考—中世的諸職と芸能上・下	兵藤裕己	文学　五六—八・九
茶の湯の宗教意識について	本多良隆	紀要（東海大・教養）　一八
居住空間より見た中世住宅の文化史的考察	水谷昌義	文化史学　四四
殺生の愉悦—謡曲「鵜飼」小考	横井　清	月刊百科　三〇四
中世人の二十歳観下	舘鼻　誠	日刊百科三〇三
中世民衆の生活と論理	黒田俊雄	『中世民衆の世界』
高揚する民衆社会	佐藤和彦	〃
中世人の朝鮮観をめぐる論争	村井章介	歴史学研究　五七六
もうひとつの御恩と奉公—『沙石集』とその時代	入間田宣夫	『中世の文化』
『続古事談』と承久の変前夜	木下資一	国語と国文学　六五—五
鎌倉初期の対外関係と博多	川添昭二	箭内健次編『鎖国日本と国際交流』上

吾妻鏡編纂の材料の再検討	平田俊春	日本歴史四八六
鎌倉後期公家社会の構造と「治天の君」	市沢哲	日本史研究三一四
後醍醐天皇、関白を廃す—建武政権の政治理念	丸谷豊	史泉　六八
北条執権の政治思想	石毛忠	『日本精神史』
一条兼良の政治思想	有田顕右	千里山文学論集
「東国国家」と天皇	伊藤喜良	『中世東国史』
室町政権と陰陽道	柳原敏昭	歴史　七一
戦国武士の思想とその伝統	武田矩直	『日本精神史』
戦国武士の運命観とその転換	石毛忠	日本歴史　四八四
戦国大名今川氏の宗教政策—寺院の自治機能と大名権力	大久保俊昭	史学論集　一八
「開発」の構造と日本中世の百姓—「去留の自由」の存立構造と逃散の意義をめぐって	鈴木哲雄	歴史学研究　五八四
井上光貞氏の浄土教研究についての覚書	平雅行	新しい歴史学のために　一九二
網野善彦著『異形の王権』	牧英正	法制史研究三七
丹生谷哲一著『検非違使—中世のけがれと権力』	植田信廣	〃

近世

慶長期の小瀬甫庵の思想	玉懸博之	『日本精神史』
三浦浄心の著作と『吾妻鏡』	大沢学	国文学研究九六
戦国武士の「天」の観念と近世思想の展開	井上厚史	日本学報（大阪大）七
近世前期の儒学思想—藤樹学における「孝」思想を中心として	山口勇	紀要（東洋大・院・文）二四
中江藤樹—本来完全であるということ	小田嶋利江	源了圓編『江戸の儒学—『大学』受容の歴史』
中江藤樹—筆蹟・生涯・思想	木南卓一	帝塚山大学紀要　二五
中江藤樹の女子教育論に関する考察—三—春風・陰騭・女訓・倭歌・書簡・翁問答	浅沼アサ子	東京家政学院大学紀要　二八
熊沢蕃山—心法と政事	八木清治	『江戸の儒学』
熊沢蕃山と岡山藩	宮崎道生	吉備地方文化研究　一
近世前期における経世済民論の特質—熊沢蕃山の所説を中心に	佐久間正	『日本精神史』
熊沢蕃山の葬祭論と岡山藩の神職請制度	神原邦男	吉備地方文化研究　一
熊沢蕃山の『女子訓』について	池田仁子	日本歴史四七六
「身」は聖学の本—山崎闇斎の敬の思想	高橋文博	思想　七六六
山崎闇斎の「神代巻」における解釈学（ヘルメノイティーク）—典型的イデオロギー形態として	Herman Ooms	〃

二つの「理」―闇斎学派の普遍感覚　田尻祐一郎　〃

闇斎学派―若林強斎を中心に　〃　『江戸の儒学』

山鹿素行の誠―その思想の理論的構成　田原嗣郎　北海道大学文学部紀要三六―二

山鹿素行の「異端」対策　前田勉　東北大学附属図書館研究年報　二一

山鹿素行―治人の学の認識論　〃　『江戸の儒学』

山鹿素行の『四書句読大全』について　多田顕　大東文化大学紀要（社会科学）　二六

伊藤仁斎の倫理―基底場面をめぐって　黒住真　思想　七六六

伊藤仁斎―非経書としての『大学』解釈　若尾政希　『江戸の儒学』

徂徠学の再構成　平石直昭　思想　七六六

「風俗」論への視角　中村春作　〃

〈方法〉としての古文辞学　澤井啓一　〃

徂徠学の一波紋―「心法」論否定の問題と松宮観山　小島康敬　〃

徂徠論―一―「思想史」の虚構―徂徠論序章　子安宣邦　現代思想　一六―四

徂徠論―二―「事件」としての徂徠学　〃　〃　一六―七

徂徠論―三―「有鬼」と「無鬼」の系譜―一―　〃　〃　一六―九

徂徠論―四―「有鬼」と「無鬼」の系譜―二―　子安宣邦　現代思想　一六―一二

徂徠論―五―荻生徂徠と津田左右吉の間　〃　〃　一六―一四

荻生徂徠と朱子　有田顕右　千里山文学論集　三六

荻生徂徠の政治思想　〃　〃　三七

荻生徂徠―古文辞学の認識論　前田勉　『江戸の儒学』

近世日本経済思想史から見た「無為」「自然」―太宰春台を事例として　川口浩　経済学論叢（中京大）　一

太宰春台の思想の一側面―『聖学問答』を中心に　豊澤一　昭和六二年度科研費研究成果報告書『徂徠以後―近世後期倫理思想の研究』

時習館の学風と秋山玉山―秋山玉山と徂徠学派との関連を中心として　遠山加奈　二松学舎大学人文論叢　三九

衰退と漸進―徂徠と竹山の歴史感覚　藤本雅彦　『徂徠以後』

懐徳堂のイデオロギー―普遍性・生産・科学　テツオ・ナジタ　思想　七六六

懐徳堂における無鬼論の形成―中井竹山の鬼神諸説の検討　陶徳民　〃

懐徳堂学派―五井蘭洲と中井履軒　田尻祐一郎　『江戸の儒学』

並河寒泉の社会政治観―『辨怪』と『居諸録』を中心に　陶徳民　日本思想史学　二〇

海保青陵の経世思想　八木清治　逆井孝仁教授還暦記念会編『日本近代化の思想と展開』
帆足万里の儒学　中村春作　『徂徠以後』
細井平洲の思想　小寺正一　〃
一八世紀後半期儒学の再検討—折衷学・正学派朱子学をめぐって　辻本雅史　思想　七六六
福岡藩寛政異学の禁と亀井南冥—徂徠学の「主体」の問題に関連して　〃　立命館文学　五〇九
異学の禁から幕末陽明学へ—「自得」、知の在り方をめぐって　荻生茂博　日本学　一一
古賀精里—異学の禁体制における『大学』解釈　〃　『江戸の儒学』
昌平黌朱子学と洋学　梅澤秀夫　思想　七六六
大槻平泉の『家譜書出』について　〃　『徂徠以後』
大田錦城の『九経談』と〃批徂徠学〃　今中寛司　日本思想史学　二〇
江戸後期の考証学—松崎慊堂の場合　吉田篤志　大倉山論集　二三
市野迷庵『詩史顰』の思想　秋元信英　国学院雑誌　八九—六
大塩中斎—反乱者の人間学　荻生茂博　『江戸の儒学』
中斎学の輪廓—佐藤一斎の学と比較して　〃　大塩研究　二四
大塩中斎と筑後柳河藩儒牧園茅山—二通の書状　丸山雍成　〃
史料が語る大塩事件の全国伝播と〃大塩ブーム〃—幕政批判思想の胎動、民衆文化の創造—一—畿内を中心に　中瀬寿一・村上義光・中瀬紀美子　大阪産業大学論集(社会科学編)　七二
佐藤一斎の思想—寛政期をめぐって　中村安宏　日本思想史学　二〇
佐藤一斎—人倫の担い手の拡大　〃　『江戸の儒学』
佐藤一斎の思想と教育(V)　山縣明人　政治経済史学　二七二
佐藤一斎ノート—その人間観　黒沢幸昭　『徂徠以後』
化政文化人の思想的世界—平田篤胤と佐藤一斎　浅田雅直　史学研究　一八一
本多利明と朴斉家—実学思想の対比的研究　許晃会　日本思想史学　二〇
広瀬淡窓『万善簿』について　栗田充治　亜細亜大学教養部紀要　三七
帆足万里の歴史観と政治改革論　五郎丸延　『日本精神史』
楠本碩水—九州における最後の崎門学者　福田殖　中国哲学論集　一四
横井小楠—近代政治思想形成史における巨視的位相　楢原孝俊　政治研究　三五
徳川経済思想史論叙説(2)—横井小楠と「大学」　山崎益吉　高崎経済大学論集　三〇—三・四
日本における儒教活用の一局面—横井小楠と勝海舟の場合　松浦玲　所報(桃山学園大・総合研)　一四—一
吉田松陰と朝鮮　吉野誠　朝鮮学報　一二八

孝明天皇の御即位礼と真木和泉守	小川常人	神道史研究 三六―四
幕末政治思想小考	吉田昌彦	海南史学 二六
理外の道 山本常朝―徳川思想における生の諸様式	本郷隆盛	思想 七七二
『葉隠』と仏教	広神清	葉隠研究 八
江戸時代の兵学思想3―兵法と兵学、文教と武教	野口武彦	無限大 七七
『太平記理尽鈔』と『本朝通鑑』―近世における『太平記』受容史の一斑	加美宏	人文学(同志社大学人文学会) 一四六
水戸史学の伝統を訪ねて	石井孝	大倉山論集 二四
忠孝国家論の構想―会沢正志斎の国体論をめぐって	辻本雅史	『徂徠以後』
後期水戸学の危機認識と民衆観―会沢正志斎を中心に	〃	本山幸彦教授退官記念論文集編集委員会編『日本教育史論叢』
幕藩制後期政治思想の一特質―後期水戸学への道程	清水教好	日本思想史研究会会報 七
近世後半における国造制論の対立―菅茶山の本居宣長批判を手がかりとして	高橋章則	川内古代史論集 四
阿蘭陀通詞西吉兵衛父子について―南蛮・阿蘭陀通詞と医学兼修・教授	片桐一男	『鎖国日本と国際交流』下
朝鮮通信使の医事問答	吉田忠	研究報告(東北大・日本文化研) 二四
渡辺崋山の西洋教育に関する理解	岩田高明	安田女子大学紀要 一六
和歌をめぐるディスクール―丸山真男『日本政治思想史研究』における「主情主義」をめぐって	櫻井進	『徂徠以後』
上田秋成論―古道信仰と古代幻想―秋成・宣長における二つの国学的世界像	野口武彦	ユリイカ 二〇―一一
伴信友の出雲風土記国引考	大鹿久義	神道学 一三八
鈴木重胤『日本書紀伝』の神話解釈と倫理思想	清水正之	『徂徠以後』
国学の継承	芳賀登	歴史人類 一六
尾張垂加派の宣長学批判の特質	岸野俊彦	歴史評論 四六一
復古神道と民俗信仰についての覚書―岡熊臣の「淫祀解除」批判	桂島宣弘	日本思想史研究会会報 七
神葬祭の基礎的研究	安蘇谷正彦 渡部真弓	国学院大学日本文化研究所報 二四―五
津軽藩士乳井貢の思想―その基礎的考察	小島康敬	長谷川成一編『北奥地域史の研究』
高松藩の英学	竹中龍範	研究報告(香川大・教育・I) 七三
佐賀藩天保期の学政改革	生馬寛信	研究論文集(佐賀大・教育) 三六―一
石田梅岩の経済倫理思想の妥当性について	渡部武	跡見学園女子大学紀要 二一
手島堵庵私新抄―一―	木南卓一	帝塚山大学論集 六〇

中沢道二私新抄―八―	木南卓一	帝塚山大学論集 五九
日本人の自然観―「能動主義」という観点からみた二宮尊徳の天道と人道	小林等	慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要（社会学・心理学・教育学） 二八
尊徳研究ノート―論語と二宮翁夜話・二宮先生語録について	多田顕	経済論集（大東文化大学経済学会） 四五
二宮尊徳の近代性	八木繁樹	斯文 九六
日本における国民的宗教の成立	尾藤正英	東方学 七五
『天道溯原』と中国・日本のキリスト教伝道―下―付『天道溯原』訳註―中・下―	吉田寅	歴史人類 一六
キリシタン問答書の表現と思想―二―	飯峯明	基督教研究 四九―二
不干斎ファビアン―近世宗教批判の構造	Oskar Mayer	中京大学教養論叢 二八―四
徳川家康の神格化をめぐって	W・ボート	『日本教育史論叢』
『東照大権現縁起』の思想	曽根原理	日本思想史研究 二〇
東照宮祭礼と民衆	倉地克直	日本思想史研究会会報 七
近世仏教と対キリシタン問題―二―	高神信也	印度学仏教学研究 三六―二
「公儀仏教」論の成立―鈴木正三における国家・寺院・民衆	奥本武裕	近世仏教・史料と研究 七
草庵恵中の研究―一―その生涯と布教	近藤良一 片山晴賢	北海道駒沢大学研究紀要 二三
日渓法霖の思想小論	平田厚志	『歴史と伝承』
江戸時代における真宗教団―「妙好人伝」の形成をめぐって―上―	森章司	大倉山論集 二四
近世後期本願寺門跡体制下の思想史的特質―越後国蒲原郡の動向から	奈倉哲三	近世仏教 七
肥後における講の展開―近世仏教の一側面	日野賢隆	『歴史と伝承』
日吉社における神仏分離遂行の経緯―慶応四年（明治元年）迄を中心に	佐藤真人	国学院大学日本文化研究所紀要 六一
大乗仏教の日本文芸におよぼせる影響の一考察―芭蕉の俳諧と仏教的体験について	安藤真	仏教経済研究 一七
近世日本文学と時間意識―芭蕉と蕪村を中心にして	永藤靖	明治大学人文科学研究所紀要（別冊） 八
天下一号の再検討	米原正義	国学院雑誌 八九―一一
善知鳥考―中世の境界認識と近世社会	浪川健治	日本歴史 四八五
近世前期における国家と天皇	本郷隆盛	東北近世史 一三
近世朝鮮官人の日本天皇観	三宅英利	『鎖国日本と国際交流』上
近世初期大名の「御家」について―公儀と「御家」観念の成立、竜造寺・鍋島佐賀藩を素材に	高野信治	九州文化史研究所紀要 三三

加賀藩主前田斉広における「教論」と教諭方について　長山直治　北陸史学　三七

岡山藩のキリシタン統制　圭室文雄　『日本宗教史論纂』

岡藩の宗門改めについて　成田勝　大分県地方史　一三二

脱藩者の論理―国家と家と個人　上田穣　『日本精神史』

江戸時代の商業思想　藤井定義　経済研究（大阪府立大）　三三―三

石井紫郎著『日本人の国家生活』　新田一郎　歴史学研究　五八四

藤井貞文著『江戸国学転生史の研究』　森田康之助　神道学　一三七

近代

日本近代化論についての覚書―桑原武夫氏の近代化論と講座派理論　増田毅　『故金沢尚淑博士追悼論文集　法学の諸問題』

日本近代化における公と私の意識　竹内治彦　紀要（慶応義塾大学大学院社会学研究科）二八

日本近代史学における文化の問題　岩井忠熊　歴史評論四五三

「生活」にみる日本思想史　藤原暹　Artes liberales　四二

続「生活」からみた日本思想史　〃　文芸研究　一一九

明治初年の民衆教化　福嶋寛隆　『歴史と伝承』

明治黎明期の知識人―『富国論』翻訳者・石川暎作を中心として　田崎公司　歴史評論　四五八

進化論と内地雑居論―進化論受容の一側面　鵜浦裕　紀要（北里大・教養）　二二

日本の近代化と御雇外国人　秀村選三　紀要（久留米大・比較文化研）　四

阪谷素論　山田芳則　史学論集（就実女子大）　三

『七一雑報』にみる科学史と自然科学　島尾永康　キリスト教社会問題研究　三六

初期同志社における新島襄と徳富猪一郎　日永朝子　政治経済史学　二六四

明六社同人の儒教意識　山田洸　『徂徠以後』

近代日本哲学と人権―加藤弘之の人権思想　浮田雄一　平和と宗教　七

福沢諭吉と加藤弘之―西洋思想の受容と国民国家構想の二類型　田中浩　一橋論叢　一〇〇―二

形成確立期福沢思想の原典草稿批判と即事性の考究―『文明論之概略』と『法の精神』　松村宏　社会思想史研究　一二

啓蒙期福沢諭吉論―下（1）―明六社との関連で　露口卓也　人文学（同志社大学人文学会）　一四六

福沢諭吉研究ノート―11・12『文明論之概略』の草稿の考察7・8　進藤咲子　論集（東京女子大）　三八―二　三九―一

福沢諭吉と内村鑑三—日本における「内面的個人主義」二つの源流—中下	飯岡秀夫	論集(高崎経大)三〇—三・四 三一—一
キルケゴールと内村鑑三	小原信	日本の神学二七
伊藤博文における教育思想の発展過程—スタイン「行政学」摂受による理論的枠組の形成	秋元光弘	教育学雑誌 二三
中江兆民における道徳と政治—「近代的政治思想」とは何か	坂本多加雄	年報近代日本研究 一〇
水面下の闘い—兆民主筆「自由・平等経綸」と森鷗外	田中実	国文学論考 二四
中江兆民と「実質説(マテリアリスム)」—『理学鉤玄』巻之三の典拠をめぐって	宮村治雄	法学会雑誌(東京都立大)二九—一
大西祝「進化論的理想説」の源流	平山洋	日本思想史学 二〇
井上哲次郎の「教育勅語」解釈の変還	籠谷次郎	『国史学論集』
西晋一郎の生涯—2—	縄田二郎	研究紀要(広島工業大)二二
実在と人格—西田幾多郎『善の研究』を読む	中本昌年	紀要(富山大・人文)一三
日本におけるキルケゴール—西田幾多郎・田辺元の場合	小川圭治	日本の神学 二七
西田幾多郎とベルクソン—初期西田哲学をめぐって	大東俊一	比較思想研究 一四
西田哲学と仏教観—『善の研究』を中心に	橋本芳契	日本海文化(金沢大・文)一四
西田幾多郎と明治後期の思想—「個」の基礎付けとしての哲学	矢崎彰	民衆史研究 三六
西田幾多郎、『善の研究』へ	山下善明	研究紀要(明星大・人文)二四
和辻「倫理学・中巻」の初版と修正版とを対比して—批判的論考ノート—5—	柳原敦夫	桜美林エコノミックス 二〇
ハーンと和辻哲郎—両者の日本理解	原田熙史	比較思想研究 一四
和辻哲郎と解釈学—比較思想的探究	頼住光子	〃
田辺哲学に於ける「メタモルフォーゼ」	円増治之	紀要(長野大)九—四
河上肇の思想遍歴—『社会主義評論』と「無我苑」の頃「社会主義者」と「志士仁人」の間	飯田鼎	三田学会雑誌 八一—二
折口信夫の可能性—上—折口信夫の創造性—柳田国男と南方熊楠との対比において	鶴見和子	芸能 三〇—四
折口信夫の可能性—下—折口信夫における民俗と歴史	山折哲雄	芸能 三〇—五
折口信夫と古代学—折口芸能史をめぐって	上田正昭	芸能史研究 一〇〇
非転向の西洋知—林達夫の場合—上—	伊沢東一	論集(拓殖大)一七一

明治以降における道家思想研究史　町田三郎　哲学年報（九州大・文）四七
久米邦武と宗教問題　山崎渾子　論叢（聖心女子大）七一
明治三年の国学四大人霊祭　阪本是丸　報告（国学院大・日文研）二四―五
日本近代における「政教分離」―島地黙雷の神道理解との関連において　藤原正信　『歴史と伝承』
明治初期における真宗の神道観―島地黙雷と南条神興の場合　藤井健志　紀要（東京学芸大・人文）三九
島地黙雷の政教関係論―維新直後から明治六年前半まで　新田均　早稲田政治公法研究　二五
近代日本のキリスト教　大浜徹也　紀要（国学院大・人文研）六二
日本とキリスト教―お雇い外国人としてのフルベッキ　工藤英一　紀要（明治学院大・キリスト教研）一九・二〇
同時代思想家としての植村正久　田代和久　『日本精神史』
神道非宗教論の発生―神社非宗教論再考序説　新田均　法と秩序　一八―二
神道非宗教論の展開―続神社非宗教論再考序説　〃　法と秩序　一八―三
天皇制ファシズム期の真宗―西本願寺教団の報国信仰運動をめぐって　赤松徹真　『歴史と伝承』
カーライル・エマソン・内村鑑三―『代表的日本人』に於ける伝統と変容　鵜木奎治郎　比較思想研究　一四
全国水平社の創立と浄土真宗信仰　藤野豊　紀要（京都部落史研）八
木下尚江の沈黙―後半生の思想の軌跡　清水靖久　思想　七七二
木下尚江における〃超越〃の思想―下　高橋正明　早稲田大学史紀要　二〇
文明史観における政治思想　多田真鋤　法学研究（慶応義塾大・法学研究会）六一―五
近代日本の離婚思想―離婚法の展開過程にみる　浦本寛雄　熊本法学　五七
近代天皇制秩序の形成と井上毅　中川洋子　竜谷史壇　九二
日本選挙制度思想史文献研究序説―徳川中末期から小野梓の理論まで　沢大洋　行動科学研究　二七
津田真道の法理論について　松岡八郎　東洋法学（東洋大）三一―一・二
文明開化のコース―福沢諭吉と田口卯吉　張翔　史学研究　一八〇
福沢諭吉の「東洋政略論」　横松宗　日本及日本人　一五九〇
愛国社再興と大阪の自由民権運動　北崎豊二　ヒストリア　一二一
民権期京都の都市言論人群像　今西一　岩井忠熊編『近代日本社会と天皇制』

明治憲法体制形成期の自由民権運動	安在邦夫	歴史学研究 五八六
藩閥政府と言論規制緩和問題―第二次松方内閣と新聞紙条例改正問題	佐々木隆	内川芳美先生還暦記念論集『自由・歴史・メディア』
民友社史論における歴史と政治	岡利郎	季刊日本思想史 三〇
政教社の成立	佐藤能丸	〃
福本日南論―「遭厄紀事」を中心として	三宅桃子	〃
民友社と明治二〇年代ジャーナリズム	有山輝雄	季刊日本思想史 三〇
陸羯南の思惟方法	山本隆基	広島法学 一一―三・四
陸羯南におけるナショナリズムと社会主義	梅田俊英	大原社会問題研究所雑誌 三六〇
陸羯南の政治思想―日清戦前の時期を中心として―3―	本田逸夫	法学（東北大・法学会） 五二―二
近代天皇制研究への一視角―日清戦争前後における天皇制支配と国家意識	安田浩	歴史学研究 五八六
日清開戦と国内世論―上―	桧山幸夫	中京法学 二二―二
日清戦争開戦期における国内世論と戦争指導	〃	中京大法学部編『現代の法と政治』
天皇イデオロギーと西洋の政治思想―幾つかの問題点	P. Lavelle 入江宏和訳	政治経済史学 二五八

木下尚江の島田三郎論	岡野幸江	初期社会主義研究 二
田中正造の直訴と半山・秋水・尚江	後神俊文	〃
日本人社会主義者の朝鮮認識―一九一〇年代についての考察	石坂浩一	史苑 四八―二
大正期における石川三四郎の思想	板垣哲夫	史学論集（山形大） 八
大正期国民新聞と「民衆化」	有山輝雄	コミュニケーション紀要（成城大・院・文） 五
大正デモクラシーと徳富蘇峰	和田守	季刊日本思想史 三〇
大正デモクラシーと黎明会―黎明会第四回講演会を中心に	中村勝範	法学研究（慶応義塾大） 六一―一
大正期アナーキズムの思想史的評価のための覚書	板垣哲夫	年報近代日本研究 一〇
初期大山郁夫の政治道徳観	藤原保信	早稲田政治経済学雑誌 二九二・二九三
賀川豊彦における社会事業論の展開	山田明	雲の柱 七
賀川豊彦と労働組合	布川弘	〃
賀川豊彦と農民運動	中村政則	〃
賀川豊彦の協同組合運動	米沢和一郎	〃
賀川豊彦とセツルメント運動―大阪における働きを中心にして	井上和子	〃

新渡戸稲造の植民論	浅田喬二	研究紀要（駒沢大・経済）四六
矢内原忠雄の植民論―上・中・下	〃	経済学論集（駒沢大）二〇―一二・三
「昭和維新」の思想史的考察―北一輝を中心として	篠原孝明	国史学研究 一四
天皇制イデオロギーと日本の侵略戦争	河村望	人文学報（都立大）二〇三
一九三〇年代前半の統制経済論―ファシズム期経済思想の一側面	白木沢旭児	日本史研究 三一五
一九三〇年代の全国水平社と大阪府連	桐村彰郎	奈良法学会雑誌 一―二
高橋財政経済思想史研究序説―高橋是清の「自力更生」論のもつ思想的意義	藤田安一	史学研究 一七九
日中戦争下石橋湛山の日英提携論―一九三三年〜一九四〇年	増田弘	アジア研究 三四―三
石橋湛山の日独提携批判論―一九三六年〜一九四一年	〃	日本歴史 四八五
日本外交思想史の研究領域を考える―戦後日本の平和論を問題にしつつ	中見真理	年報近代日本研究 一〇
井田進也著『中江兆民のフランス』	米原謙	論集（下関市大）三一―三
早稲田大学大学史編集所編『小野梓の研究』	山中永之佑	法制史研究 三七
井出文子著『平塚らいてう―近代と神秘』を読んで	斉藤道子	歴史評論 四五五

発刊の辞

東北大学法文学部の開設とともに、故村岡典嗣氏を初代の主任教授として日本思想史学専攻が設立せられたのは大正十二年のことである。

昭和二十一年春、村岡氏が定年退官せられて後、後任者の得難きままに九年余を経て、昭和三十年に故竹岡勝也氏が就任せられた。しかし竹岡氏も在職二年にして定年退官せられ、一年を経て昭和三十三年に私が両教授の芳躅をけがすことになった。

本専攻の学部（第三・四年）は「日本思想史学専攻」として文学部史学科に属し、大学院（修士・博士課程）は「国文学国語学日本思想史学専攻」として文学研究科に属している。日本思想史学の独立の講座を基礎として、日本史（国史）専攻、乃至は国文学専攻または倫理学専攻とは別に、独立した「日本思想史学専攻」が設けられているのは、東北大学のみである。

以上の如き本専攻の歴史と現状に鑑み、関係者相い諮って、専攻専属の機関誌として、本誌を刊行し、その研究・教育の状況を学の内外に紹介することにした。大方の御援助を仰ぐ次第である。

昭和四十二年三月

石田一良

日本思想史研究　第二十三号

平成三年三月十五日　印刷
平成三年三月二十五日　発行

編集代表者　玉懸博之
仙台市宮城野区日の出町二丁目四ノ二
印刷所　㈱仙台共同印刷
仙台市青葉区川内
発行所　東北大学文学部
日本思想史学研究室